

審美修復学特論

Advanced Course of Esthetic Restorative Dentistry

キーワード

- ① 審美修復
- ② ホワイトニング
- ③ セラミック修復
- ④ コンポジットレジン
- ⑤ Minimal Intervention

授業概要

審美修復学は口腔内の機能的な回復を求めるとのみならず、より審美的な回復を追及する学問である。審美修復には、オフィスブリーチング、ホームブリーチング、ダイレクトコンポジットレジン修復法、各種セラミック修復法等があるがそれぞれに適用症が存在する。本授業では各種審美修復法の特徴ならびに適用症例を学ぶ。また、ブラウンスポット（褐色斑）の審美的再石灰化を目指しブリーチングによる再石灰化促進効果を見出した研究についても解説し、今後の展開を議論する。

授業科目の学修目標

本科目では審美的回復を図るホワイトニング、コンポジットレジン修復法、各種セラミック修復法ならびに接着技法を解説し、本手法を用いた国内外の研究成果ならびに今後の展開を議論することにより大学院レベルにおいて必要な国際的で幅広い知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① オフィスホワイトニングの理論・術式について 6コマ 向井義晴
- ② ホームホワイトニングの理論・術式について 6コマ 向井義晴
- ③ ホワイトニングを用いた審美的再石灰化療法の概念と研究成果について 6コマ 向井義晴
- ④ セラミック修復、CAD/CAMとダイレクトボンディング手法の理論・術式について 6コマ 向井義晴
- ⑤ MIコンセプトに基づく直接修復法の理論・術式について 6コマ 向井義晴

教科書および参考書

天然歯審美修復のセオリー 図解Q&A、北原信也 監修、クインテッセンス出版株式会社

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

審美修復学特論ではう蝕制御修復学分野で発表された関連する研究論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① オフィスホワイトニングの理論・術式について説明できる。
- ② ホームホワイトニングの理論・術式について説明できる。
- ③ ホワイトニングを用いた審美的再石灰化療法の概念と研究成果について説明できる。
- ④ セラミック修復、CAD/CAMとダイレクトボンディング手法の理論・術式について説明できる。
- ⑤ MIコンセプトに基づく直接修復法の理論・術式について説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
30%	0%	40%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回30%
- ・レポートは、審美修復学特論の2項目について課題を提出する。20%×2回=40%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

審美修復学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。